



QT-A シリーズコントローラ用アプリケーションソフト

QT-EDIT

【プログラムエディタ】

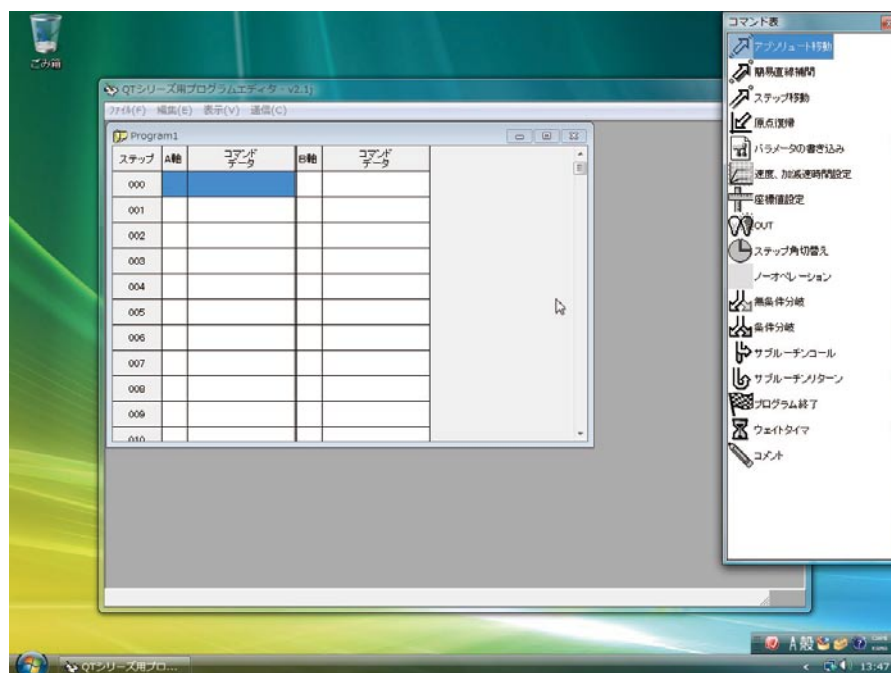
For Windows 2000 / XP / Vista

本説明書は QT-EDIT のバージョン 2.0 以降に対応しています。

取扱説明書

このたびは、当社製品をお買い上げいただき、
まことにありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を正しく安全にお使いください。
お読みになったあとも大切に保管し、必要なときにご活用ください。



CHUO PRECISION INDUSTRIAL CO., LTD.

はじめに

QT-EDIT は、QT-A シリーズ用プログラムエディタで、パソコン上でステージの様々な動作をプログラムし、コントローラに転送して保存します。保存したプログラムは、コントローラ単体で呼び出して実行させることができますので、複雑な動作をくり返して使用する場合や、各種の動作パターンを選択して動作させたい場合などに便利に使用することができます。

本書はパソコン本体や、OS の基本的な操作が可能である方がご使用されることを前提に記述されておりますので、ご了承ください。パソコン本体や、OS などの操作などにつきましては、それぞれの取扱説明書をご覧くださいようお願いいたします。また、弊社ではパソコン本体や、OS などのソフトウェアに関する質問などにはお答えしかねますので、ご了承ください。

QT-EDIT の主な特徴

- RS-232C または LAN ポート装備の市販のパソコンからプログラムを転送できます。
- コマンドアイコンをドラッグ&ドロップするだけで、プログラムの編集ができます（一部数値入力が必要なコマンドがあります）。
- 最大 200 行（QT-ADL1, QT-ADL1-35 は 100 行）のコマンドを 1 つのプログラム中に編集できます。

本製品をお使いになる前に

- 本書に記載の内容やソフトウェア本体は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容につきましては、万全を期して作成しておりますが、万一御不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
- 本書の内容の一部、または全部、ソフトウェア本体を無断で複製することは個人としてご利用になる場合を除き禁止されています。また、本書の無断転載は固くお断りします。
- 本製品の使用により生じた損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、弊社では一切責任を負いかねますので、ご了承ください。
- パソコンの故障、トラブル、第三者による修理その他の理由により生じたデータの消失による損害および逸失利益などに関して、弊社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Windows 2000 / XP / Vista はマイクロソフト社の登録商標です。

インストールの前に

動作環境

本製品をお使いになる前に、ご使用のパソコンが以下の条件を満たしていることを確認してください。

- 対応 OS : Windows 2000 / XP / Vista のいずれかがインストールされていること
(上記いずれかの OS 単体で正常動作するパソコンであること)
- ハードディスク : 50MB 以上の空き容量のある 2GB 以上の HDD が装備されていること
- RS-232C または LAN インターフェースを搭載していること
- CD-ROM ドライブを装備していること

⚠ 注意

- ご使用のパソコンのハードウェア、ドライバ、アプリケーションなどの動作環境によっては本製品が正常に動作しない場合があります。
- 本説明書に使用されている画面イメージ等は一例であり、OS の種類やバージョンおよび設定によって、異なった画面が表示される場合があります。

⚠ 重要

- QT-EDIT は Windows 2000 / XP / Vista 32bit 版でのみ動作確認を行なっています。
現時点では Windows Vista 64bit 版、および Windows 7 32bit 版 / 64bit 版による動作確認等の予定はございません。
Windows 2000 / XP / Vista 32bit 版以外の OS をご使用になる場合は、お客様の責任の範囲でお願いいたします。
- QT-EDIT を使用中に「コントローラから応答がありません」と言うメッセージが表示される場合、QT-A コントローラ本体の各機種の取扱説明書に記載されている「通信テスト(テストモード)」を実施してください。
「通信テスト」でもパソコンとコントローラの接続ができない状態では、QT-EDIT は使用できません。このような場合、ご使用のパソコンが正常動作しているかを再度ご確認くださいませすようお願いいたします。

■ 目次

1	QT-EDIT のインストール	4	5	QT-EDIT 使用上の注意	30
2	プログラムの新規作成	8		コマンド	30
3	プログラムの編集	13		通信	30
	ファイルの開き方	13		プログラム作成上のヒント	31
	コマンドの削除	14	6	各コマンドのデータ詳細	32
	コマンドの挿入	16	7	変更不可・禁止のパラメータ表	33
	コマンド表の表示	18			
	上書き保存	19			
4	通信	20			
	通信設定	20			
	通信確認	22			
	プログラムのダウンロード	24			
	プログラムのアップロード	26			
	コントローラ制御	28			

1 QT-EDIT のインストール

⚠ 注意

- インストールの際は、必ずパソコンの取扱説明書も併せて参照してください。
- 既に QT-EDIT がインストールされている状態で、新たに QT-EDIT をインストールする場合は必ずアンインストールをした後に行ってください。（アンインストールについては、Windows の解説書を参照してください。）
QT-EDIT Ver.2.0 より古いバージョンは必ずアンインストールを行なってください。
- 表示画面は一例です。ご使用の OS（基本ソフトウェア）によって表示が一部異なりますが、操作方法は Windows 2000 / XP / Vista とも共通です。この説明書では Windows Vista での操作例を説明いたします。

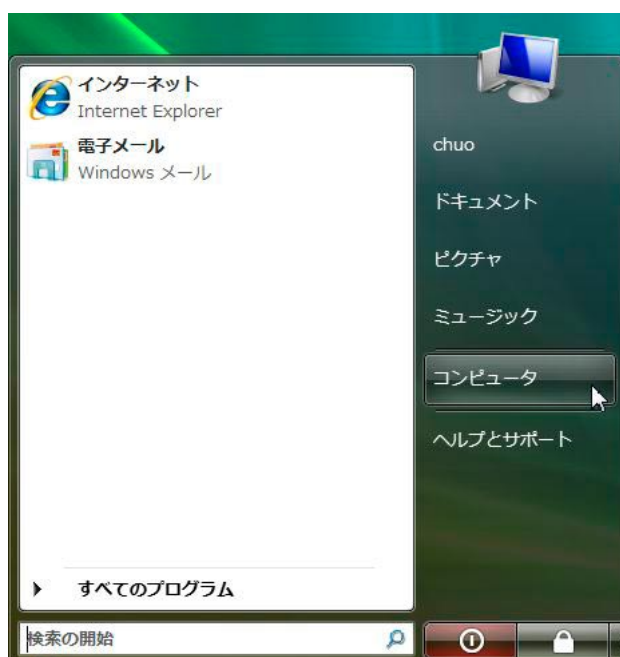
1. パソコン（およびモニタなど）の電源を入れて、Windows を起動します。

⚠ 注意

インストールが完了するまで、QT-A シリーズコントローラとパソコンの接続は行なわないでください。

2. QT-EDIT のインストール

- ① QT-CDROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
- ② 「スタート」 ボタンをクリックし「コンピュータ」を選択してください。



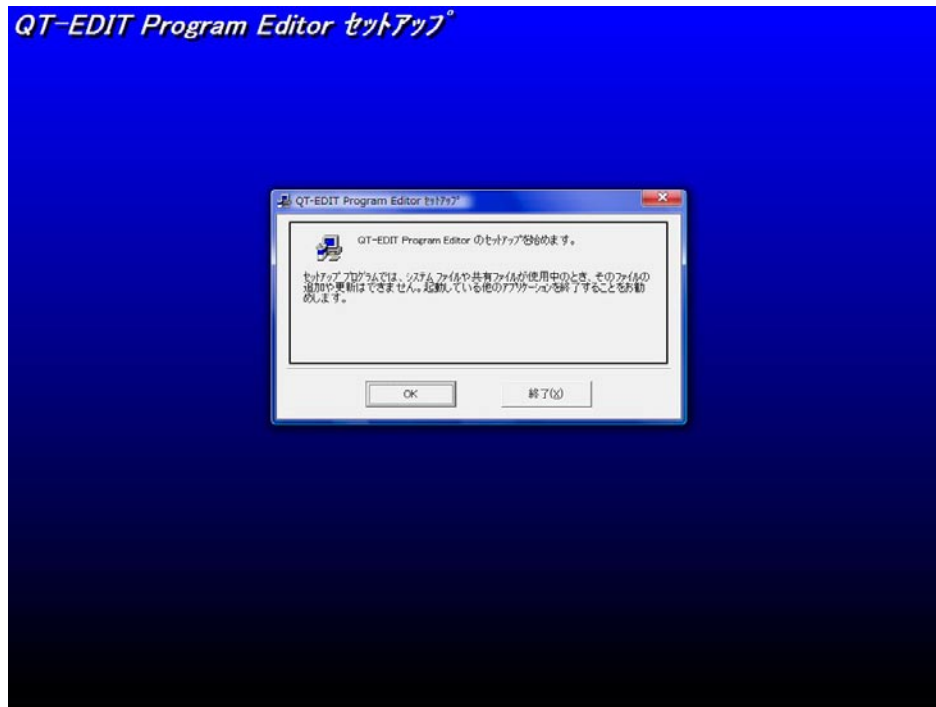
- ③ CD-ROM を挿入したドライブをダブルクリックします。



- ④ 「QT-EDIT」のフォルダ内の「setup.exe」を実行します。(パソコンマークのアイコン)



- ⑤ 自動的にインストール開始画面が表示されますので、内容を読んで「OK」をクリックします。

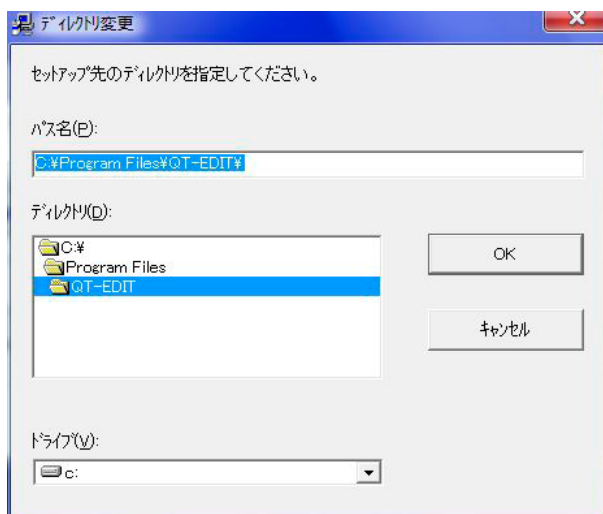


- ⑥ 「QT-A シリーズ用プログラムエディタ セットアップ」画面が表示されます。

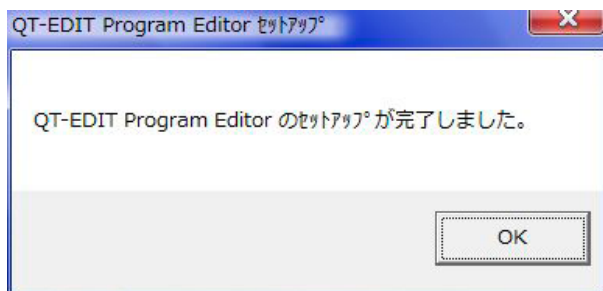
プログラム標準のディレクトリにインストールする場合は、「セットアップ」ボタンをクリックしてください。その他のディレクトリにインストールしたい場合は「ディレクトリ変更」ボタンをクリックしてください。



- ⑦ 「ディレクトリ変更」ボタンをクリックすると、「ディレクトリ変更」画面が表示されます。
インストールしたいディレクトリを選択して、「OK」をクリックします。



- ⑧ 自動的にインストールがスタートします。
インストールが問題なく終了すると、「QT-EDIT Program Editor のセットアップが完了しました。」と表示されますので「OK」をクリックしてください。



- ⑨ 以上でインストールは終了です。
インストール終了後は CD-ROM をパソコンから取り出して、保管してください。

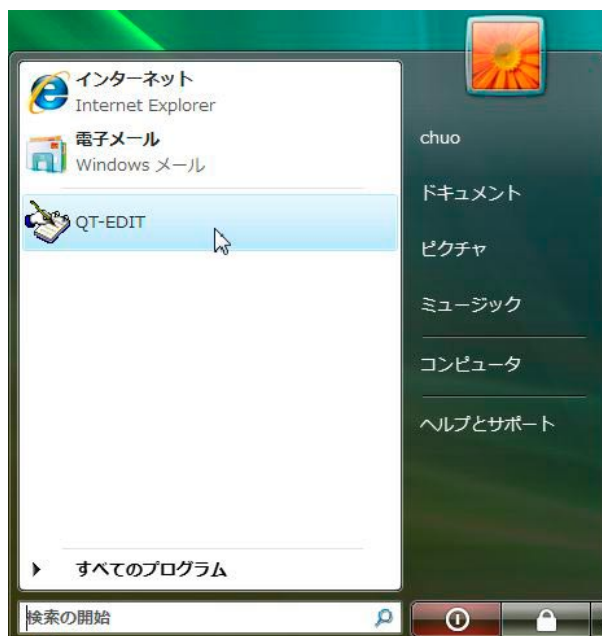
2 プログラムの新規作成



注意

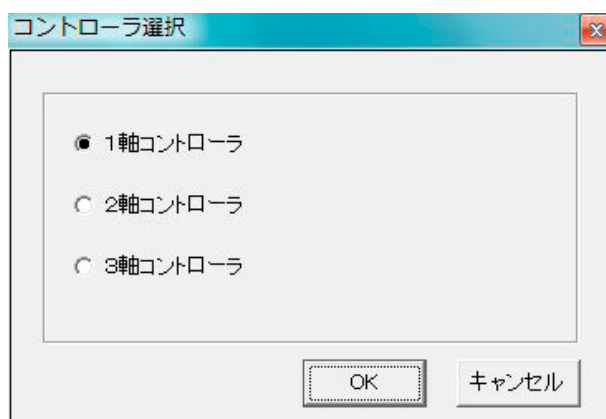
表示画面は一例です。ご使用の OS（基本ソフトウェア）によって表示が一部異なりますが、操作方法は Windows 2000 / XP / Vista と共通です。

- ① 「スタート」 ボタンをクリックし、次に「QT-EDIT」をクリックしてください。



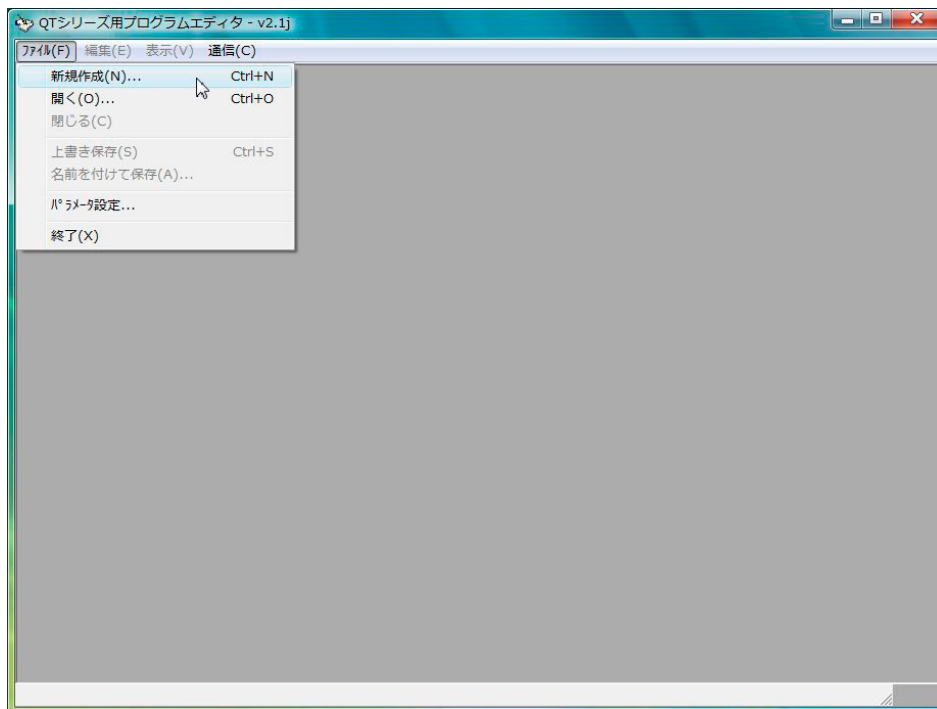
- ② 接続したコントローラの軸数を選択し「OK」をクリックしてください。

ここで選択する軸数は制御する軸数ではなく、使用するコントローラの軸数（下表参照）を選択してください。



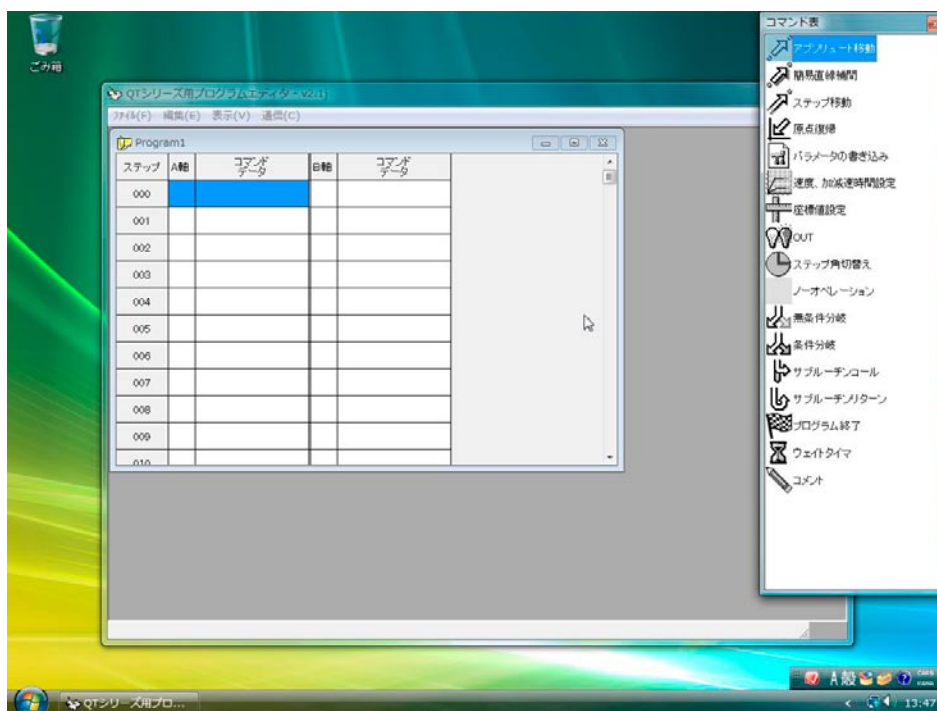
コントローラ	選択する軸数
QT-ADL1 / QT-ADL1-35	1 軸
QT-ADM2 / QT-ADM2-35 / QT-AMH2 / QT-AMH2-35	2 軸
QT-ADM3 / QT-ADM3-35	3 軸

- ③ ソフトウェアが起動しますので、「ファイル」→「新規作成」を選択します。

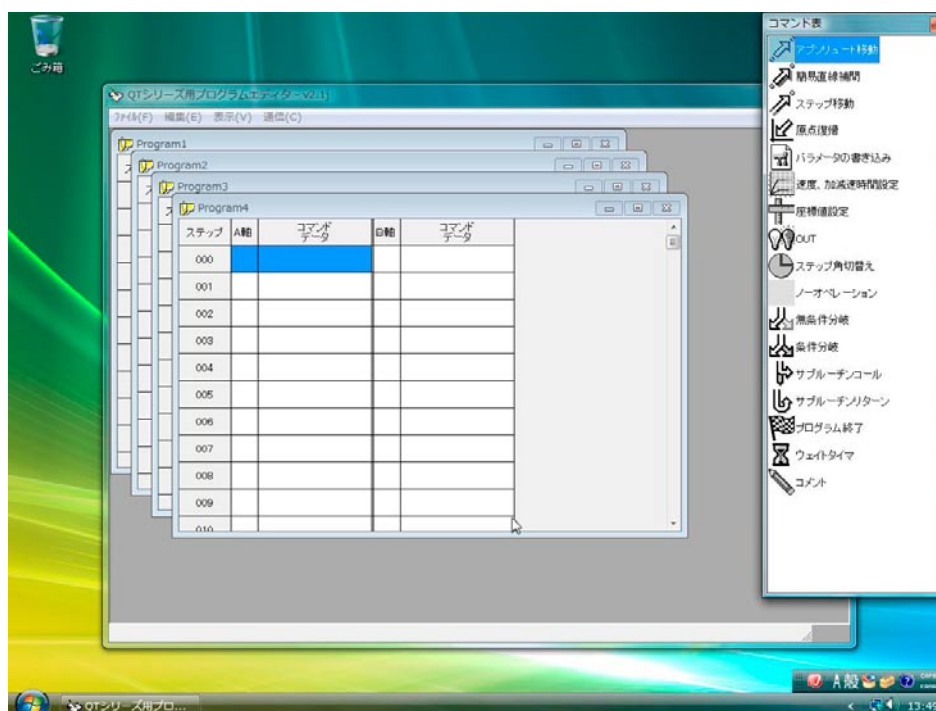


- ④ 指定した軸数 × 200 ステップ（行番号）のプログラム編集ウィンドウが表示され、新規プログラムの入力が可能な状態になります。

※ QT-ADL1, QT-ADL1-35 の場合は、100 ステップが表示されます。

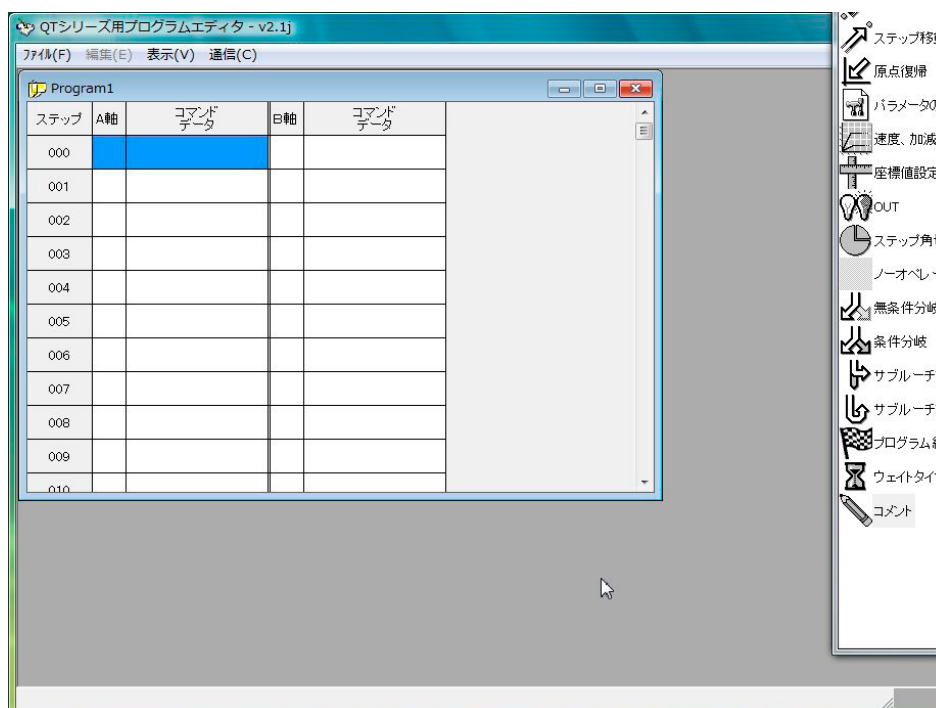


- プログラムの新規作成の操作を繰り返し、複数のプログラムを同時に表示・編集することも可能です。



- プログラムの名称は「Program1」、「Program2」、「Program3」・・・のように自動的に割り振られます。なお、この名前はパソコンへファイル（プログラム）を保存する時に変更することもできます。

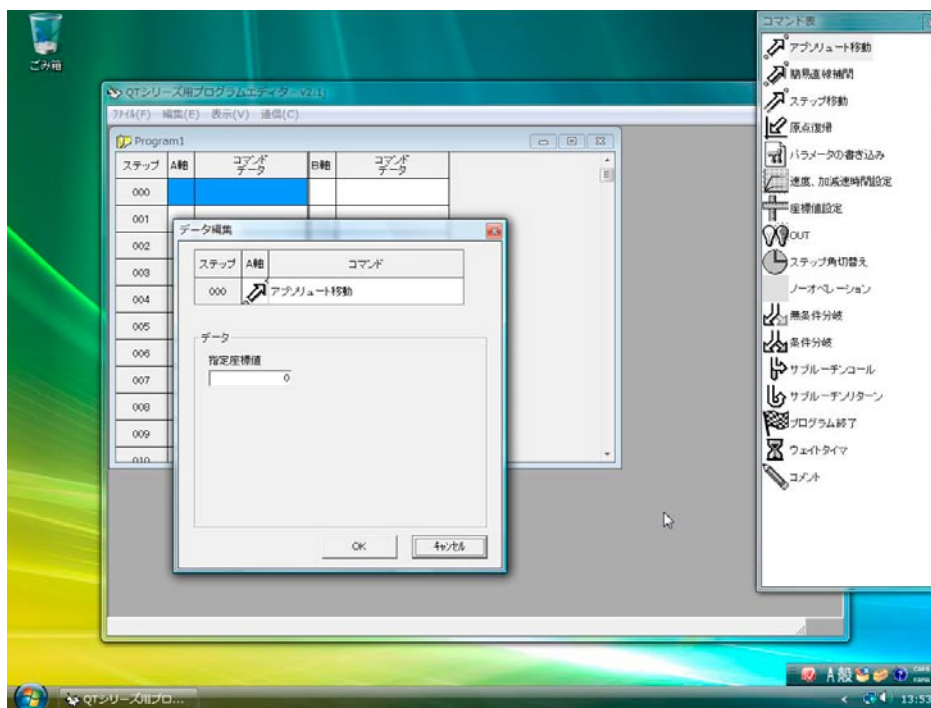
- ⑤ プログラム編集ウィンドウ内には「カーソル」と呼ばれる青く塗りつぶされた部分（グリッド）があります。このカーソルが示したグリッドに対して、コマンドを配置・編集・置き換えなどの作業を行います。



- カーソルは、目的のグリッドをマウスで直接クリックするか、矢印キー（「←」、「→」、「↑」、「↓」）によるグリッド単位の移動、「Page Up」、「Page Down」キーによるページ単位での移動する方法があります。

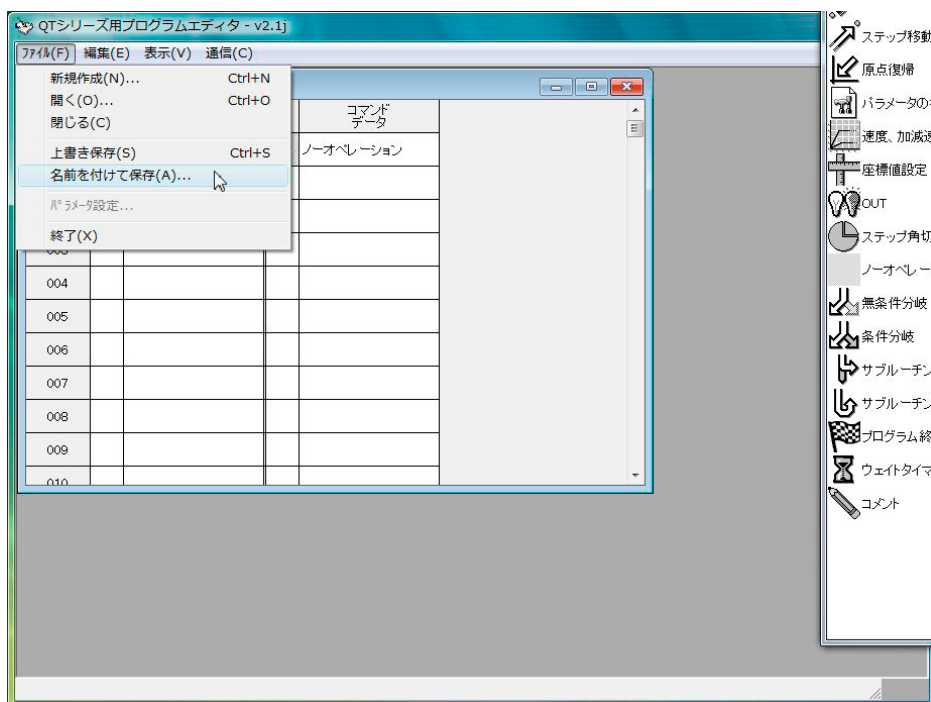
- ⑥ コマンド表のコマンドをドラッグ&ドロップするか、ダブルクリックしてコマンドを選択すると、「データ編集」ダイアログが表示されます。

必要に応じて数値などをウィンドウの中に書き込んで「OK」をクリックします。



- ドラッグ&ドロップによるコマンドの選択では、選択されていないグリッドでもコマンドを入力することができます。その場合は間のグリッドには「ノーオペレーション」コマンドが入力されます。
- コマンドの詳細については、「6. 各コマンドのデータ詳細」(P.32)をご覧ください。

- ⑦ コマンドの入力が済みましたら、「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択して、保存（パソコンへ）します。



 **注意**

Windows Vista 以降の OS では保存先フォルダを「C: ¥Program files」にすると OS のセキュリティ機能により、QT-EDIT 以外のアプリケーション（エクスプローラ等）では、保存したファイルの閲覧・コピー・移動・削除ができなくなりますのでご注意ください。

「名前を付けて保存」とした場合には「Program files」フォルダ以外に保存、または「ドキュメント」フォルダに保存することをお勧めします。

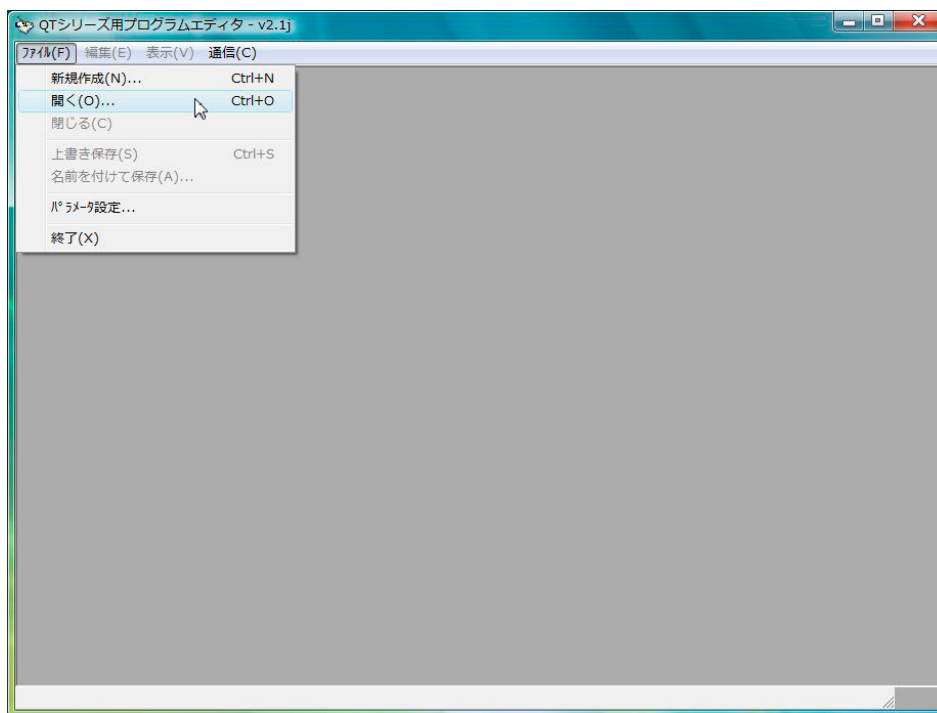
3 プログラムの編集

⚠ 注意

表示画面は一例です。ご使用の OS（基本ソフトウェア）によって表示が一部異なりますが、操作方法は Windows 2000 / XP / Vista とも共通です。

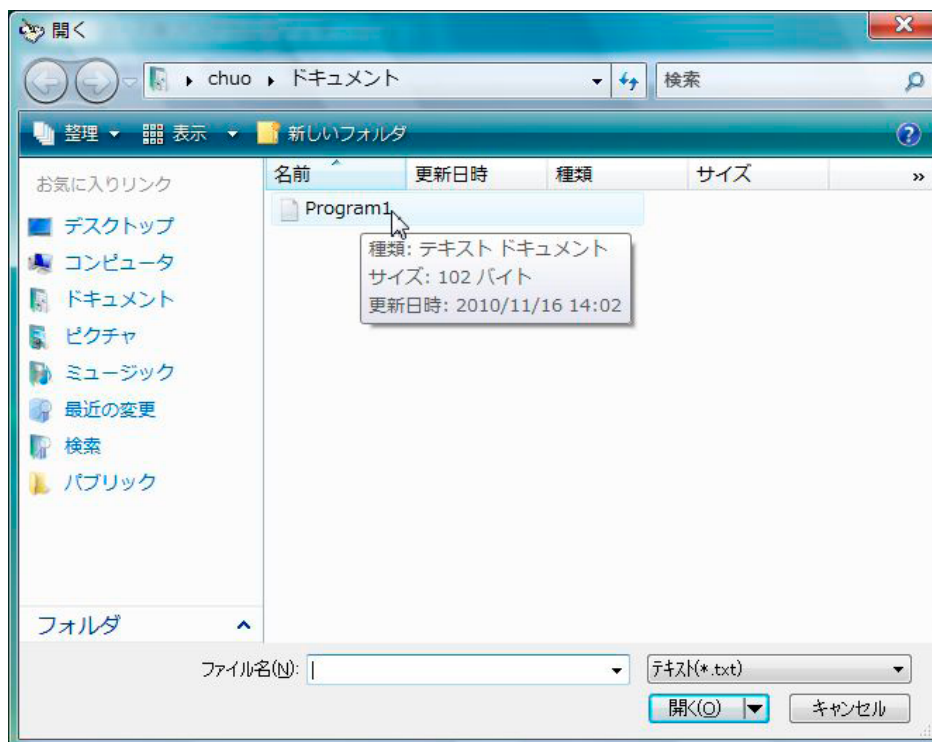
ファイルの開き方

- ① 「QT-A シリーズ用プログラムエディタ」を起動し、メニューの「ファイル」→「開く」を選択します。



② ファイルを選択すると、ダイアログが表示されます。

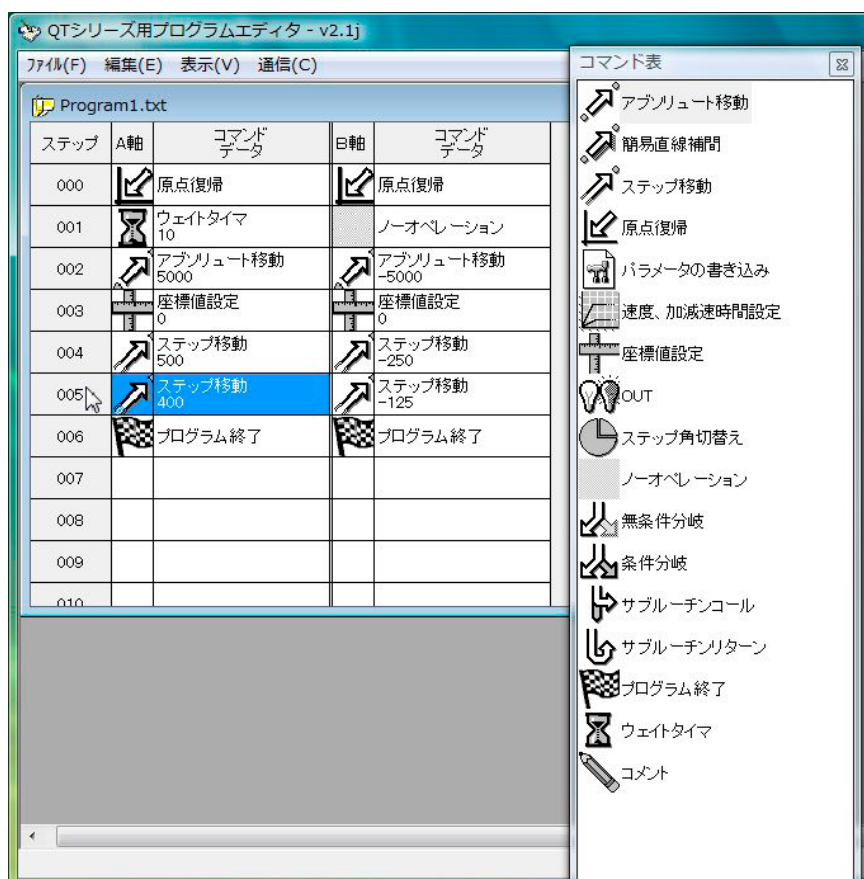
目的のファイルを選択して「開く」をクリックすると、選択したファイルが開きます。



● 複数のプログラムを同時に開いて、表示・編集することも可能です。

コマンドの削除

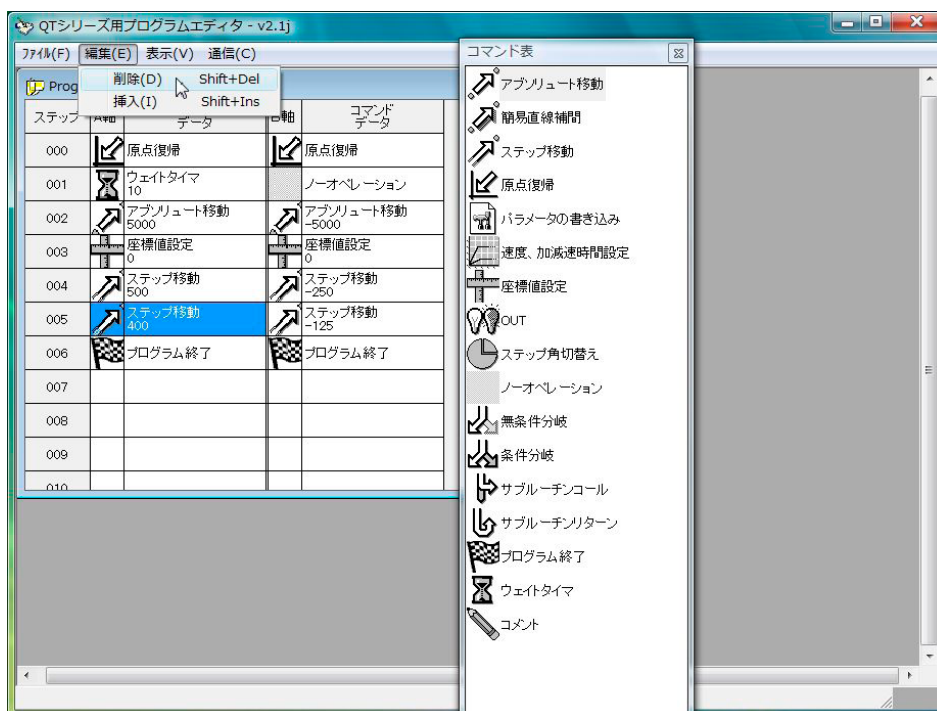
① 削除したいグリッドにカーソルを移動します。



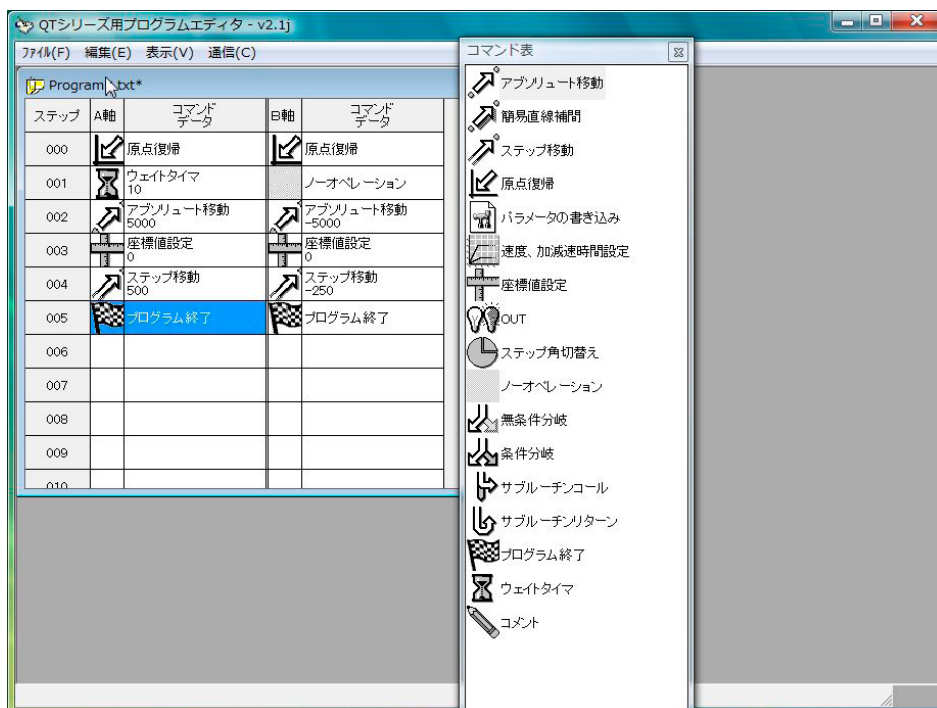
- ② メニューの「編集」→「削除」または、「Shift」キー + 「Del」キーを選択します。

⚠ 注意

この操作を行うと選択したグリッドを含む行全体が削除されます。複数軸のプログラムは、注意してください。



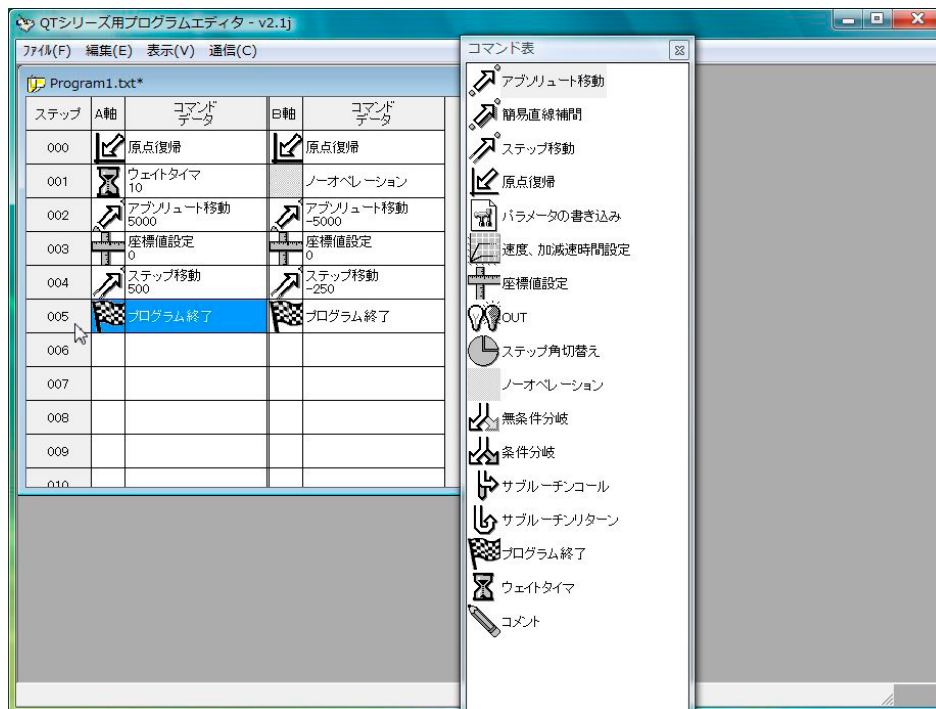
- ③ 選択したグリッドのステップ行が削除されます。



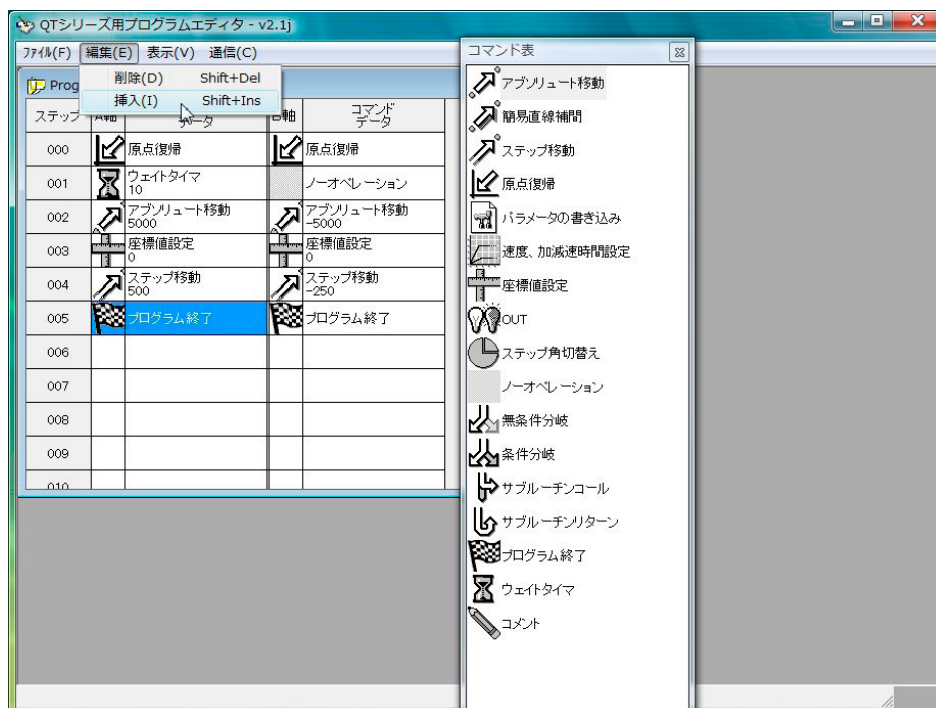
コマンドの挿入

① 挿入したいグリッドにカーソルを移動します。

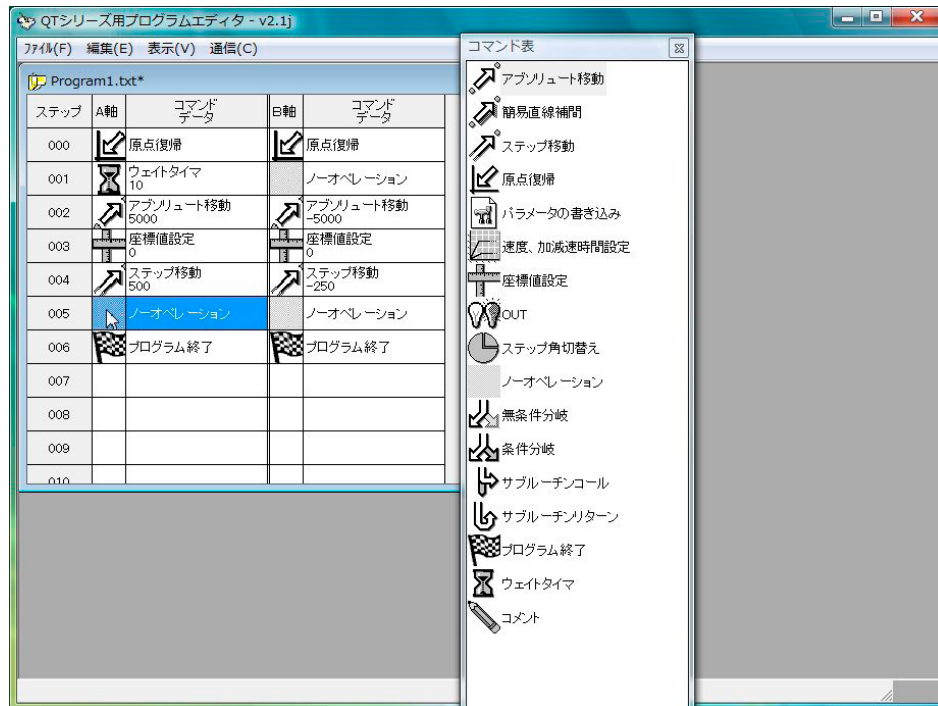
例：004 行と 005 行の間に 1 行追加する場合



② メニューの「編集」→「挿入」または「Shift」キー + 「Ins」キーを選択します。



③ 選択したグリッドに「ノーオペレーション」コマンドが挿入されます。

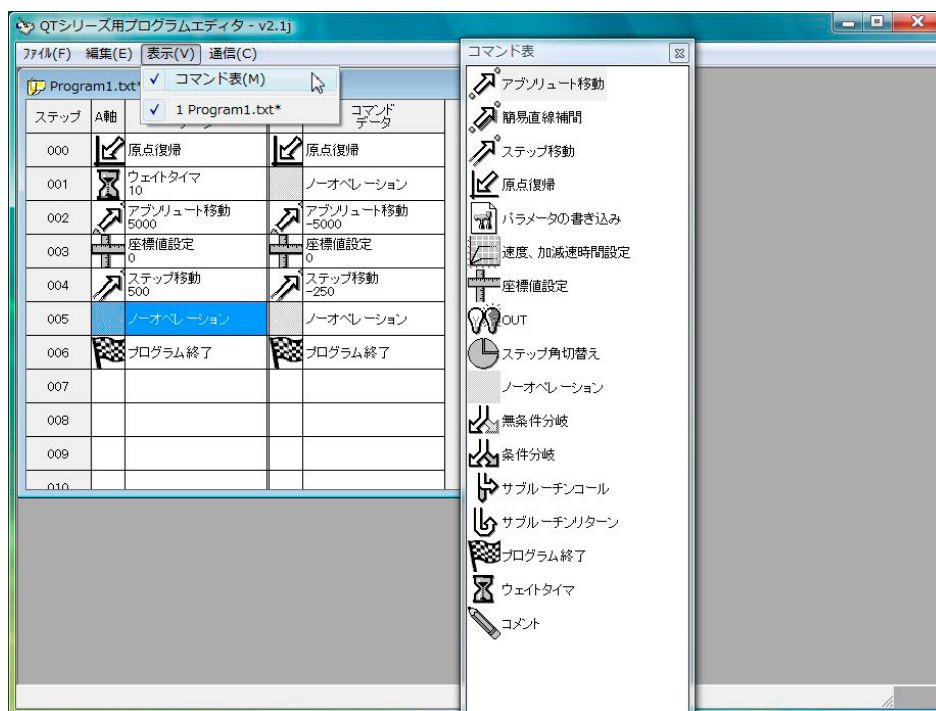


⚠ 注意

コマンドの削除・挿入を行うと行番号が変わります。無条件分岐・条件分岐、サブルーチンコールなどのコマンドで行番号を指定している場合は、行番号の修正が必要となります。行番号を自動で変更する機能はありません。

コマンド表の表示

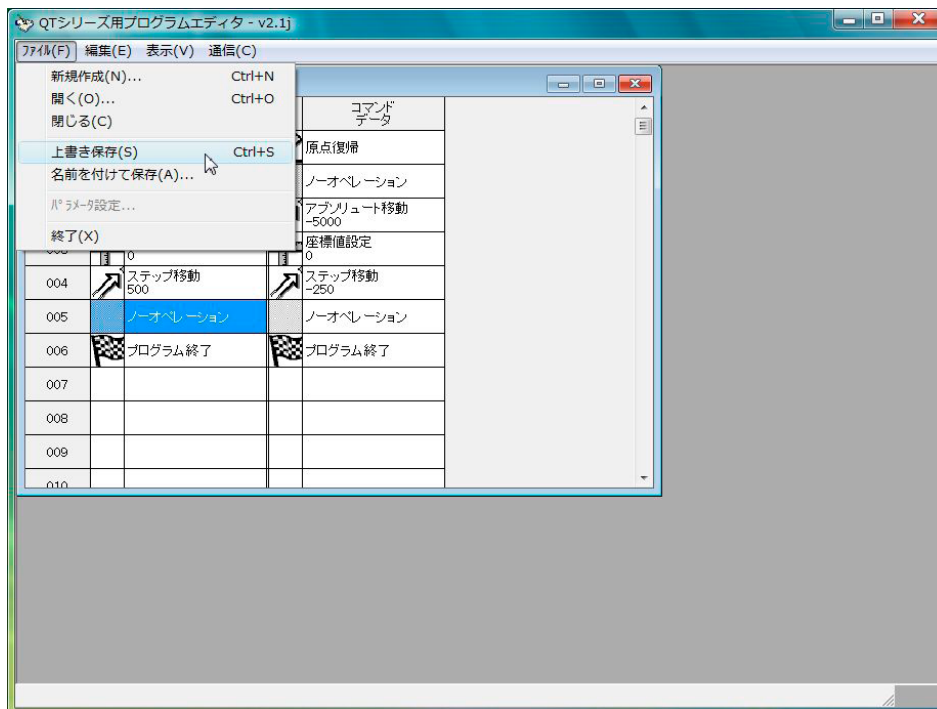
メニューの「表示」→「コマンド表」を選択すると、使用できるコマンドの一覧を表示します。



- コマンド表はメニューを選択するたびに表示／非表示を繰り返します。
- コマンドの詳細については、「6. 各コマンドのデータ詳細」(P.32)をご覧ください。
- コマンド表は、新規にプログラムファイルを作成しようとしたときと、ファイルから読み込みを行なった時は自動的に表示されます。
- コマンド表は、他のウィンドウと配置が重なっても常に一番手前に表示されますので、簡単にコマンドを選択することができます。
- コマンド表は、編集中のプログラムを全て閉じた時は自動的に非表示になります。

上書き保存

編集したプログラムを同じファイル名で保存する時は、「上書き保存」を行ってください。



メニューの「ファイル」→上書き保存を選択すると同じファイル名で保存されます。

⚠ 注意

- 「上書き保存」を選択すると、前回保存したプログラムファイルは消滅しますので、前回保存したプログラムファイルを残したい場合は、「名前を付けて保存」メニューから異なった名前を付けて保存してください。
- 一度も保存されてないプログラムファイルに対して、「上書き保存」を選択すると、自動的に「名前を付けて保存」と同じ動作になります。

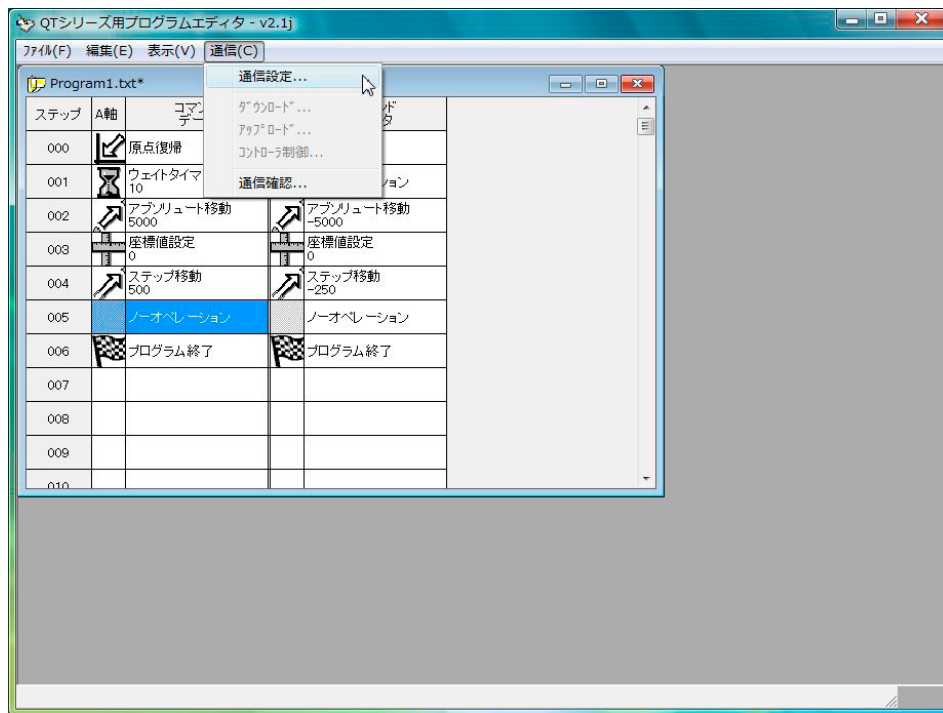
4 通信

通信機能では、表示中のプログラムをコントローラに転送して保存したり、コントローラ上のプログラムの実行・停止をすることができます。

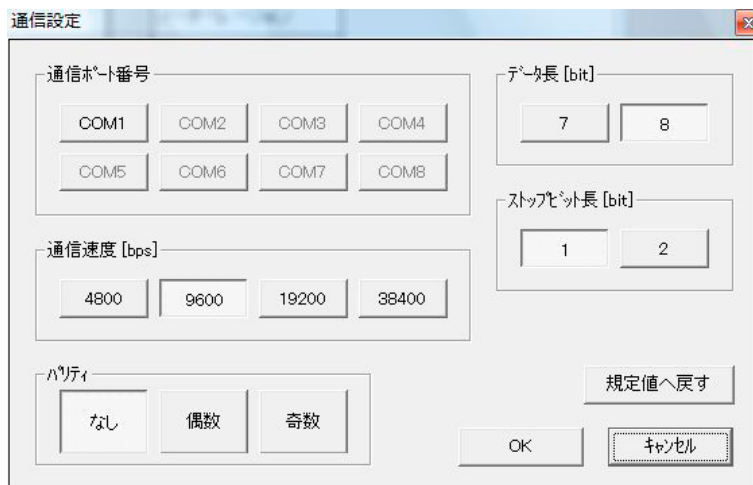
通信機能は RS-232C、LAN（仮想 Com ポート）共通です。

通信設定

- ① メニューの「通信」→「通信設定」を選択します。



- ② 通信設定ダイアログが表示されますので、通信条件を正しく設定してください。



⚠ 注意

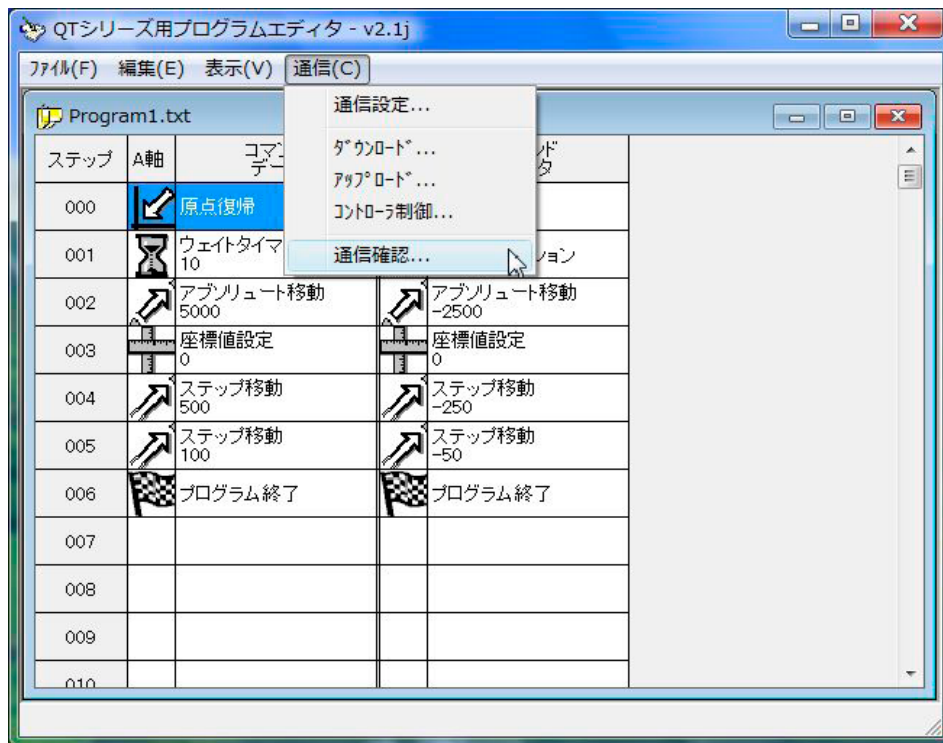
- 「通信ポート番号」以外は、通常（コントローラが工場出荷時設定の場合）のご使用では、変更の必要はありません。設定を変更しますと、正常な通信が行なわれなくなる場合がありますので、設定を変更する場合は内容をよくご理解の上、十分注意して変更してください。
- 何らかの原因で設定が変わってしまった場合など、出荷時の状態へ戻す必要がある場合は、「規定値へ戻す」ボタンをクリックしてください。「通信ポート番号」以外の設定はすべて出荷時の初期値に設定されます。

- ③ 「OK」ボタンをクリックします。自動的に設定が保存されます。

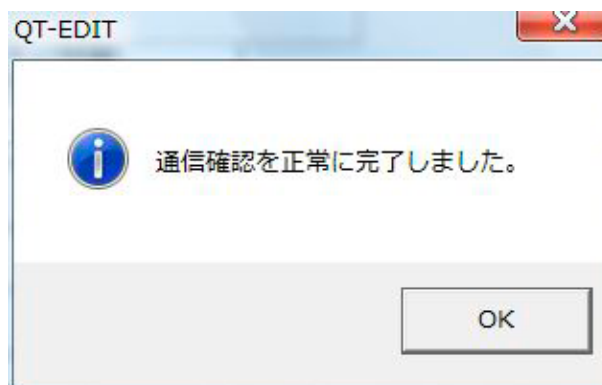
通信確認

ご使用のパソコンで接続したコントローラが制御可能かを、以下の方法により通信回線をチェックすることができます。

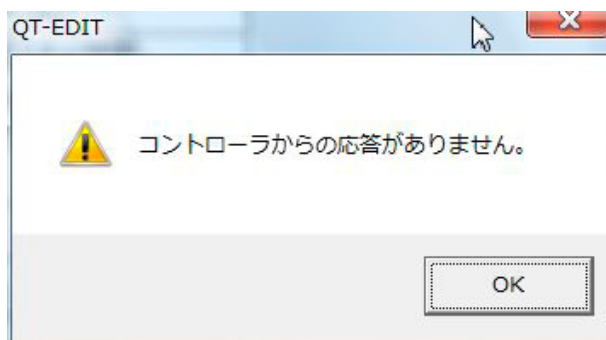
- ① メニューの「通信」→「通信確認」をクリックします。



- ② 画面に「通信中」と表示された後、「通信確認を正常に完了しました」と表示されれば接続したコントローラの制御が可能となります。
「OK」をクリックして終了してください。



- ③ 画面に「通信中」と表示された後、「コントローラからの応答がありません」と表示された場合、パソコン、コントローラ、ケーブルのいずれかの問題により、通信制御ができない状態となっています。
「OK」をクリックして本手順を終了させ、パソコン、コントローラ、ケーブルの接続を確認してください。



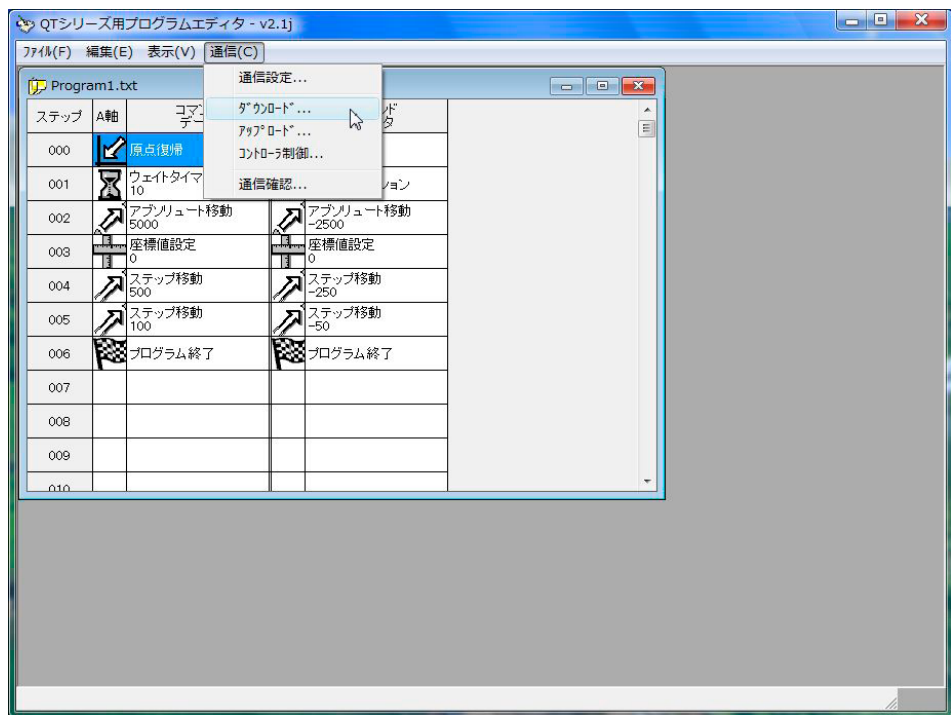
プログラムのダウンロード

作成したプログラムをコントローラへ読み込みます（ダウンロード）。プログラムエディタで作成してダウンロードされたプログラムは、「ダウンロード型データ」となります。

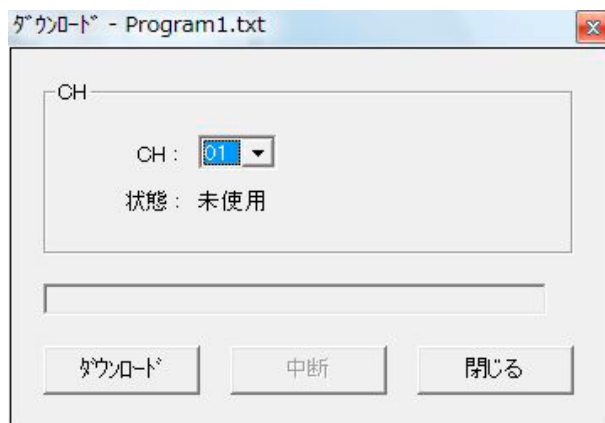
「ダウンロード型データ」については、QT-A シリーズコントローラ取扱説明書の「PGR モード（プログラムモード）」の項をご覧ください。

ダウンロードしたプログラムは、パソコンとコントローラを切り離してコントローラ単体でプログラムを実行することができます。

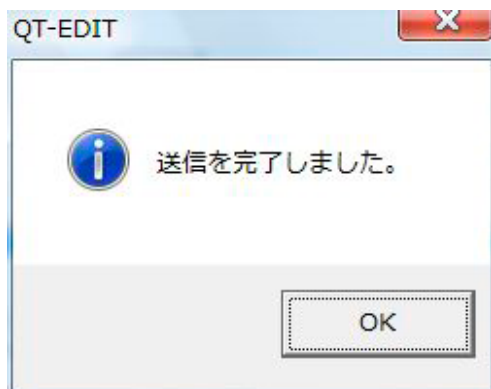
- ① メニューの「通信」→「ダウンロード」を選択します。



- ② ダウンロードダイアログが表示されますので、コントローラのどのチャンネル（CH）へダウンロードするか設定します。



- ③ ダウンロードが正常に完了すると「送信を完了しました」が表示されます。「OK」をクリックして閉じてください。

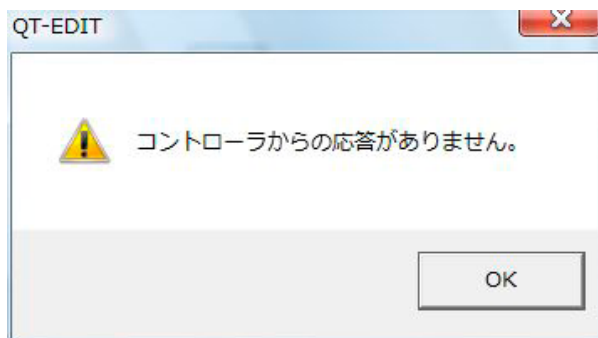


⚠ 注意

- 指定した CH がコントローラで使用されていない場合は「未使用」と表示されます。
- 指定した CH がすでにコントローラで使用されている場合は、その CH で使われているステップ数と属性が「ティーチ・XXX ステップ使用中」のように表示されます。
- プログラム CH に空きがない場合は、コントローラ側から「プログラムの削除」を行ってください。
- 他のプログラム（含むティーチング）で使用されている CH へプログラムをダウンロードすると、そのプログラムは上書きされ破棄されます。

何らかの原因によりダウンロードが正常に行われなかった場合、「コントローラからの応答がありません」とアラートが表示されます。

コントローラの電源が入っているか、コントローラとパソコンが正しく接続されているかケーブルを確認してください。

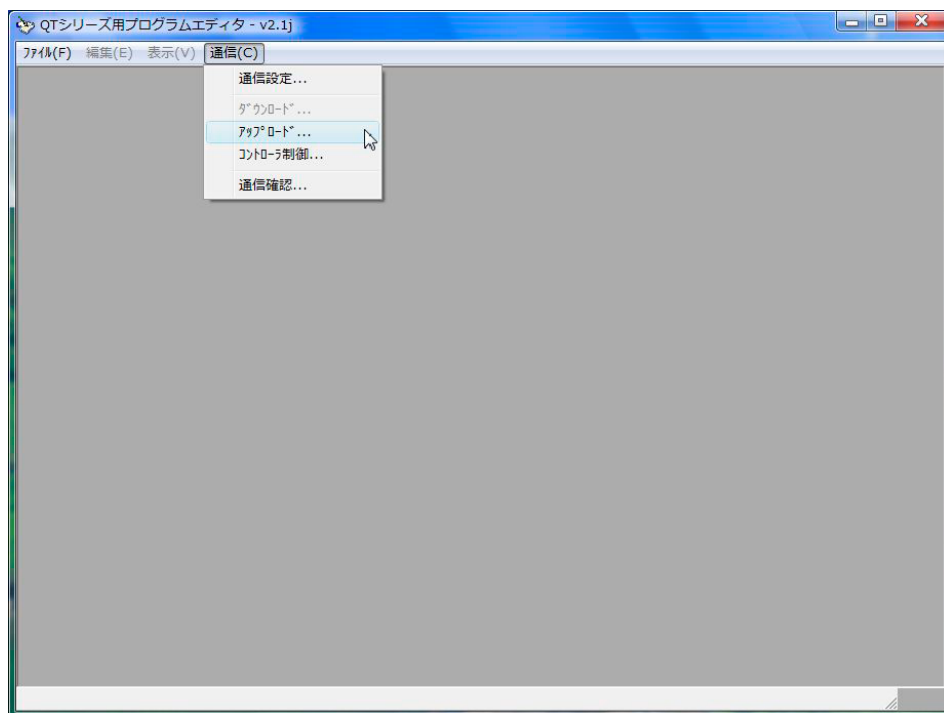


プログラムのアップロード

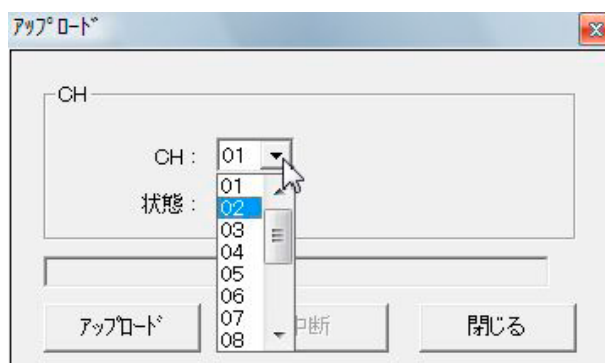
コントローラ内に記憶されているダウンロードプログラムを、QT-EDIT に送ることができます（アップロード）。

- アップロードはコントローラ内に保存されているダウンロードプログラムのみです。ティーチングデータのアップロードはできません。
- アップロードは QT-EDIT 起動直後に選択した軸数と接続されているコントローラの軸数が一致しないとエラーとなり、アップロードすることができません。

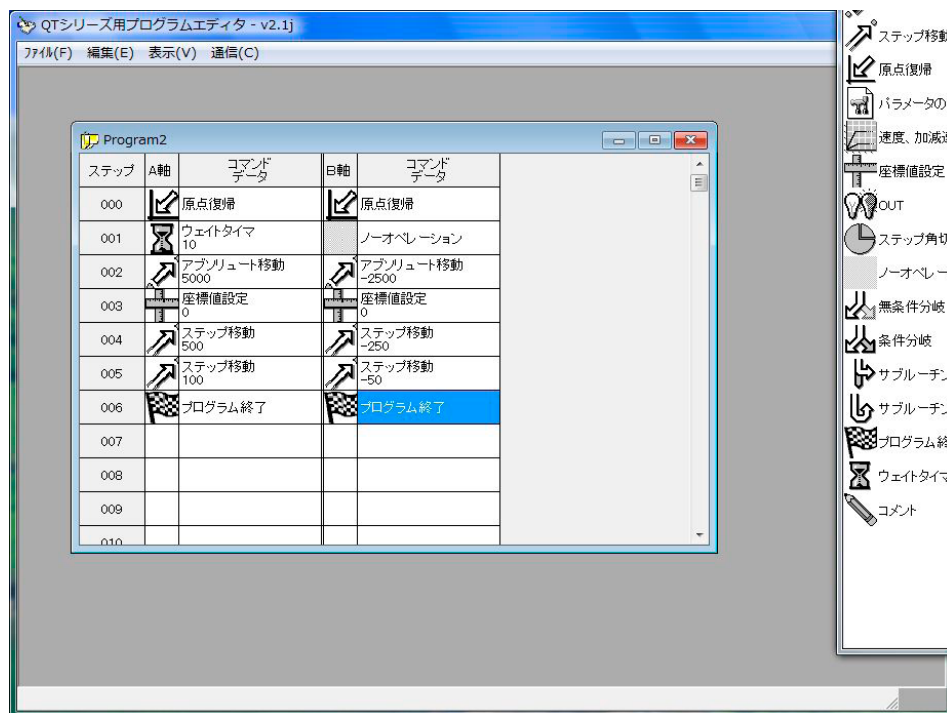
- ① メニューの「通信」→「アップロード」を選択します。



- ② アップロードダイアログが表示されますので、どのチャンネル (CH) のプログラムをアップロードするか、チャンネル番号を選択後、「アップロード」ボタンをクリックします。



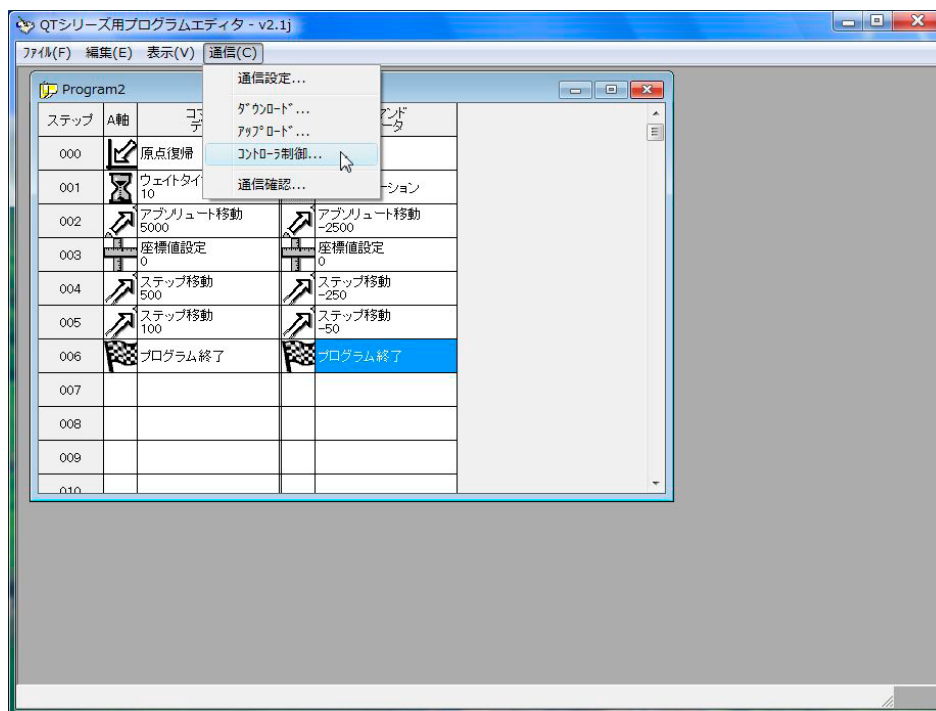
- ③ 「受信を完了しました」のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックしメッセージを閉じると、コントローラからアップロードしたプログラムが表示されます。



コントローラ制御

プログラムエディタ上から、プログラムが実行できます。この機能は、プログラムのデバックに使用すると便利です。

- ① メニューの「通信」→「コントローラ制御」を選択します。

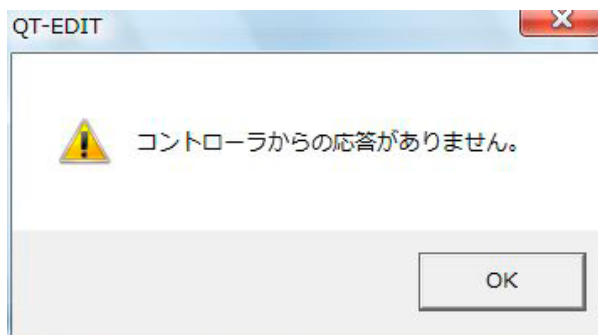


- ② コントローラ制御ダイアログが表示されますので、制御を行なうチャンネル(CH)を設定します。

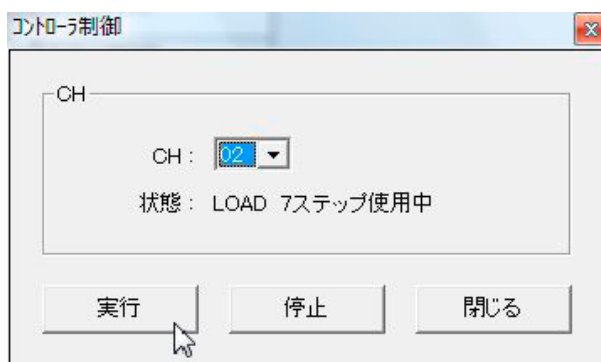
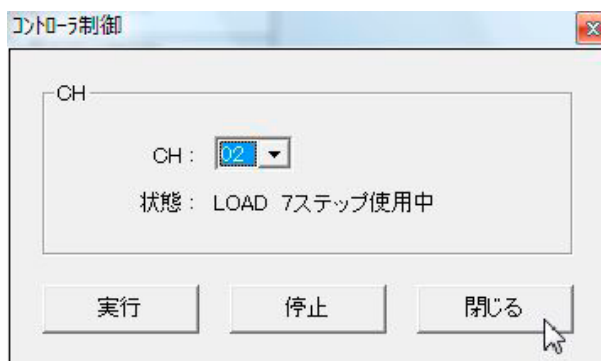


⚠ 注意

- 指定した CH がコントローラで使用されていない場合は「未使用」と表示されます。
- 指定した CH がすでにコントローラで使用されている場合は、その CH で使われているステップ数と属性が「ティーチ・XXX ステップ使用中」のように表示されます。
- コントローラの電源が入っていなかったり、接続していない場合は、「コントローラからの応答がありません」とアラートが表示されます。

**③ 「実行」 ボタンをクリックします。**

自動的に指定したチャンネルのプログラムが実行されます。プログラムの実行中に「停止」ボタンをクリックすると、実行中のプログラムは停止します。

**④ コントローラ制御を終了する時は「閉じる」ボタンをクリックしてください。**

5 QT-EDIT 使用上の注意

コマンド

1. いずれかの軸に「アブソリュート移動」または、「簡易直線補間」のコマンドを選択した場合、そのステップ（行番号）の他の軸に入力できるコマンドは、同様のコマンドか、「ノーオペレーション」のどちらかになります。それ以外のコマンドは入力できません。
2. いずれかの軸に、「サブルーチンコール」、「無条件分岐」、「コメント」の各コマンドを入力した場合、そのステップ（行番号）の他の軸に同じコマンドが自動的に入力され、全て同じコマンドになります。異なるコマンドを入力することはできません。ステップ内が全て同じコマンドになっている状態で他のコマンドを入力すると、コマンドが置かれた軸以外はノーオペレーションに変わります。
3. 「コメント」コマンドに使用できる文字はアスキー文字で 64 文字以内です。

ASCII20h（スペース）～ 7Eh（チルダ）までの文字（96 種類） ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz,.0123456789
--

通信

1. 通信設定で指定した条件は使用するコンピュータの種類によっては設定値通りの条件で通信されない場合があります。
2. コントローラへプログラムを送信した時、その CH が他のプログラム（含むティーチング）で使用されている場合、そのプログラムは上書きされ消滅します。

プログラム作成上のヒント

1. 全軸（複数軸）の移動開始時の同期をとる場合、無条件分岐を使用してください。無条件分岐を使用することで全軸の同期を一度に取ることができます。無条件分岐で適当なステップ（行番号）へジャンプさせ（次の行など）、そこからプログラムを継続してください。
2. プログラム実行中、以下の機能が働いた場合、プログラムは実行を中止しプログラムメニューに戻ります。
 - ・ 原点復帰移動を除く移動中、ステージ上のリミットセンサを検出した場合
 - ・ ソフトリミットの設定がされていて、その設定値を超える移動命令が実行された場合
 - ・ 原点復帰オフセットが設定されていて、その設定値より手前にステージのリミットセンサがある場合
 - ・ 原点復帰で原点センサを検出できなかった場合（原点復帰エラーとなった場合）
 - ・ 原点復帰範囲の設定がされていて、復帰範囲内で原点センサを検出できなかった場合（原点復帰エラーとなった場合）

※ 原点復帰移動中にリミットセンサで折り返す場合には原点復帰エラーになりません

同期運転の説明

① A 軸と B 軸が非同期で動く例

各ステップ毎に移動させようとするが移動量の少ない B 軸が先にプログラムを完了してしまう

ステップ	A軸	コマンドデータ	B軸	コマンドデータ
000	ステップ移動	10000	ステップ移動	10
001	ステップ移動	20000	ステップ移動	20
002	ステップ移動	20000	ステップ移動	30
003	プログラム終了		プログラム終了	
004				
005				
006				
007				
008				

② A 軸と B 軸が同期して動くように改善した例

「無条件分岐」コマンドを各ステップの後に挿入することで、A 軸 B 軸両方の移動が完了するまで、次の移動に移行しなくなる

ステップ	A軸	コマンドデータ	B軸	コマンドデータ
000	ステップ移動	10000	ステップ移動	10
001	無条件分岐	2	無条件分岐	2
002	ステップ移動	20000	ステップ移動	20
003	無条件分岐	4	無条件分岐	4
004	ステップ移動	20000	ステップ移動	30
005	無条件分岐	6	無条件分岐	6
006	プログラム終了		プログラム終了	
007				
008				

6 各コマンドのデータ詳細

No	コマンド	説明	設定内容	設定値	単位
1	 アブソリュート移動	指定座標位置への移動を行います。	目標座標値	+99,999,999～-99,999,999	
2	 簡易直線補間 (注1)	任意の2軸間で簡易直線補間を行いながら指定座標へ移動します。	目標座標値	+99,999,999～-99,999,999	
3	 OUT	汎用出力端子制御	汎用出力端子の状態	0:オープン(Hi) 1:ショート(Lo)	—
4	 速度、 加減速時間設定	各軸の低速速度、高速速度、加減速時間を設定します。	高速速度	10～500,000 (注5)	pps
			低速速度	10～500,000 (注5)	pps
			加減速時間	1～1000	ms
5	 原点復帰	現在位置よりステージ原点(原点センサ)に原点復帰を行います。	—	—	—
6	 ステップ移動	指定された軸と移動量(パルス数)を高速で移動します。	移動量	+99,999,999～-99,999,999 (※QT-ADL1/QT-ADL1-35は、 +16,777,215～-16,777,215)	(パルス)
7	 パラメータの 設定	コントローラのパラメータの設定を行います。	パラメータNo.	0～99 (注4)	
			値	+99,999,999～-99,999,999	—
8	 座標値設定	現在座標値(現在位置)を任意の座標値に変更します。	座標値	+99,999,999～-99,999,999	
9	 ステップ角切替え	モータの1ステップあたりの移動角(ステップ角)をフルステップに対する分割数で設定します。	設定値	0～15 (注6)	—
10	 ノーオペレーション	何も実行しません。他の軸とタイミングを取る場合などに使用します。	—	—	—
11	 無条件分岐	無条件で指定先にジャンプします。他の軸とタイミングを取る場合などに使用します。	指定先	0～199 (AT-ADL1,QT-ADL1-35は、0～99)	ステップ番号
12	 条件分岐	指定された軸が条件を満たした時点で、指定先にジャンプします。 (注2)	軸名	A～C	—
			状態	0:停止 1:移動	—
			指定先	0～199 (AT-ADL1,QT-ADL1-35は、0～99)	ステップ番号
13	 サブルーチンコール	サブルーチンをコールします。指定先のステップ番号とくり返し回数を指定します。(注3)	指定先	0～199 (AT-ADL1,QT-ADL1-35は、0～99)	ステップ番号
			繰返し回数	1～100	—
14	 サブルーチンリターン	サブルーチンの終わり	—	—	—
15	 プログラム終了	プログラムの終わり	—	—	—
16	 ウェイトタイマ	指定された時間プログラムを停止	時間	1～100	×100ms
17	 コメント	プログラム中のコメント用にユーザーが自由に使用できます。	0～64文字以内で ASCII20h(スペース)～7Eh(チルダ)までの文字(96種類)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ VWXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz. 0123456789	—

注1：QT-ADL1、QT-ADL1-35では使用できません。

注2：条件式の判断はすぐに実行しますが、指定先にジャンプするのは全軸が停止してからになります。したがって動作は、無条件分岐と同様になります。これは、軸同士の同期をとるためのものです。

注3：サブルーチンのネストは3段まで可能です。

注4：一部のパラメータに変更禁止や変更不可のがあります。次頁「変更不可・禁止のパラメータ」をご覧ください。

注5：QT-ADL1、QT-ADL1-35は、10から50,000ppsで、設定ピッチは10ppsです

注6：QT-ADL1、QT-ADL1-35、QT-ADM2、QT-ADM2-35、QT-ADM3、QT-ADM3-35は、「0」フルステップ、「1」ハーフステップのみとなります

7 変更不可・禁止のパラメータ表

No.	機能	変更操作
01	原点センサ論理	可能
02	原点前センサ論理	
03	原点復帰モード	
04	ステージ選択	不可
05	原点復帰開始方向と完了位置	可能
06	使用軸指定	
07	原点復帰速度選択	
08	原点復帰時低速速度	
09	原点復帰時高速速度	
10	原点復帰時加減速時間	
11	原点復帰オフセット	
12	+方向原点復帰範囲	
13	-方向原点復帰範囲	
14	+方向ソフトリミット	
15	-方向ソフトリミット	
16	バックラッシュ補正	不可
18	モーター回転方向	
19	操作ボックスの単位表示	
20	ステージ分解能	
22	S 字駆動時の S 字領域速度幅指定	可能
23	駆動パルスの出力方式指定	
24	駆動パルスの入力方式指定	
25	任意ステップパルスのステップ数指定	
26	任意座標パルス出力指定	
51	デリミタ設定	不可
52	GP-IB アドレスの設定	
53	RS-232C の設定	
54	非常停止の解除方法の指定	可能
55	停止方法の選択	
56	電源投入時座標値再現	不可
57	返答付きコマンドの返答バイト数の設定	可能
58	操作ボックスのキー操作時ブザー音	
59	入力端子に機能切替え	QT-ADL1, QT-ADL1-35 のみ変更可能
60	操作ボックスの設定状態保持	不可
70	スケールパルスの入力方式選択	
73	インボジション幅の設定	
75	スケール分解能設定	
76	スケールによる移動量補正の ON/OFF	
77	位置決め完了タイムアウト	
78	位置決め完了のリトライ数	

注：表中の「変更操作」に「可能」と記載されたパラメータのみ変更が可能です。

注：表中に記載の無いパラメータ No. は、メンテナンス用のシステムパラメータで、お客様はご使用になれません。安易な変更は誤動作の原因となりますのでおやめください。

本取扱説明書に記載された内容は予告無しに変更する場合がありますのでご了承ください。また、製品についても改良のため予告無しに変更する場合がありますのでご了承ください。

QT-EDIT 取扱説明書 Ver. 2.1

2013/04/10 ADV.



中央精機株式会社

本社営業部 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-5 及川ビル 3F
TEL.03-3257-1911 FAX.03-3257-1915